

2024年度

事業計画書

2023年度

アクションプラン 年次報告書



学校法人二松學舎

<https://www.nishogakusha-u.ac.jp/>

Contents

目次

A. 2024(令和6)年度事業計画書	1
I. 法人の概要	1
1. はじめに	1
2. 設置学校の概要	2
3. 入学者数等	2
4. 教職員数等	2
5. 役員等一覧	2
II. 事業の概要	2
1. 法人	2
2. 大学(学部・大学院)	3
3. 附属高等学校	5
4. 附属柏中学校・高等学校	6
III. 財務の概要	7
B. 2023(令和5)年度アクションプラン年次報告書	9
1. アクションプランの構成と2023(令和5)年度版策定までのフロー	9
2. アクションプランの進捗管理	9
3. 2023(令和5)年度アクションプランの概要	10
4. 2023(令和5)年度アクションプランの進捗とその成果	11
5. 2023(令和5)年度アクションプランのフォロー課題について	16

I 法人の概要

1 はじめに

二松学舎は、1877(明治10)年10月10日、明治を代表する漢学者三島中洲が、現大学九段校舎の地(当時 麹町一番地)に漢学塾二松学舎を創設したことに始まり、漢学塾、専門学校、現在に続く大学の三つの時代を経てきた。この間、「国漢の二松学舎」として一貫して東洋の精神文化を基盤とし、人間教育の実践、とりわけ国語や書道、中国語の各教科を担当する中等教育の教員養成に努めてきており、併せて創設以来伝統と実績のある国文学、中国文学における教育研究活動で成果を挙げている。1928(昭和3)年の二松学舎専門学校(旧制)設置以降、1948(同23)年には二松学舎高等学校(現附属高等学校)を開設し、1949(同24)年には新制大学へ移行。1966(同41)年に大学院文学研究科修士課程国文学・中国学専攻、博士課程中国学専攻を開設し、1969(同44)年には附属沼南高等学校(現附属柏中学校・高等学校)を設置し、九段並びに柏の両附属高等学校では「論語」を特設科目に置き全学年必修とするなど、建学の精神に沿った教育を実践してきた。1986(同61)年に大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程を開設、1991(平成3)年に国際政治経済学部を、2001(同13)年には同研究科修士課程を設置した。2004(同16)年には日本漢文学研究の分野で、文部科学省の21世紀COEプログラムに採択され、2015(同27)年には同分野で私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けた。2017(同29)年、文学部に都市文化デザイン学科を設置し、同年10月に二松学舎創立140周年を迎えた。また、2018(同30)年、国際政治経済学部国際経営学科を設置し、附属高等学校が70周年を、2019(令和元)年には附属柏高等学校が50周年を迎えた。更に、2022(同4)年4月に国際日本学研究所と文学部歴史文化学科を設置し、3研究科2学部6学科の体制となった。

教育研究環境整備の面では、九段3号館が2009(平成21)年7月に、九段4号館が2014(同26)年12月に竣工した。附属沼南高等学校では2011(同23)年2月に新体育館を建設、同年4月には新たに附属柏中学校を設置し、校名を附属柏高等学校に改称、中高一貫教育の実現を図った。また、附属高等学校では生徒募集および教育の抜本的見直しなど中期計画を段階的に推進するなど、大学・両附属高校でそれぞれ新たな教育改革計画が始動した。

2012(平成24)年の創立135周年を機に、建学の精神の具現化と特色ある教育研究の強化を図るため「長期ビジョン(N'2020 Plan)」を定め、これに基づく行動計画である「アクションプラン」を2013(同25)年度より計画し実行してきた。さらに、2017(平成29)年の二松学舎創立140周年を機に、新長期ビジョン「N'2030 Plan」を策定し、2030年に向けた本法人全体の指針として公表し推進することとした。2022(令和4)年10月に創立145周年を迎えた。

◆「N'2030 Plan」の概要

「N'2020 Plan」の基本方針を引き継ぎ、私学を取り巻く環境の激変に対応するため、役員、教職員、学生・生徒、父母、取引先などステークホルダーの意見を基に、2030年に向けた本法人の進むべき指針として「新長期ビジョン(N'2030 Plan)」を策定・公表した。①N'2020 Planの基本理念、フレームワーク等の踏襲 ②教育の方向性と充実策 ③包括的学生・生徒支援体制の構築 ④キャンパス整備 ⑤財政、人材育成、評価制度、組織、戦略的広報体制等の在り方 の理念・方針に沿って、5年間の「新アクションプラン」として目標を設定し達成に向け全学的に取り組んでいく。

1. 「N'2030 Plan」の建学の精神に基づき育成する人間像

日本に根ざした道徳心を基に、良質な知識と英語・中国語等語学力を身に付け、我が国の歴史と文化を理解し、かかる知識を背景として、より良き社会を実現する目標をもって、グローバルに活動する逞しい人材の育成

【実行計画】

- (1)大学、両附属高校、中学校の一段のブランドアップと目標とするベンチマーク校の設定
- (2)プラン全体の進捗状況可視化のためのKPI(重要業績評価指標)の設定とダッシュボードによる進捗管理
- (3)全てのステークホルダーによる課題共有化による目標達成

2. 2030年型教育の方向性と充実策

- (1)二松学舎大学の教育改革 (2)二松学舎大学大学院の教育改革 (3)附属高等学校、附属柏中学校・高等学校の教育改革

3. 包括的学生・生徒支援体制の構築

- (1)教務支援、学生生徒支援の充実 (2)進路支援の充実
- (3)学生や父母のニーズへの対応、父母会・松苓会(同窓会)等との連携強化 (4)クラブ・サークル活動支援

4. キャンパス整備

- (1)二松学舎大学のキャンパス整備 ①九段キャンパス、柏キャンパスの整備拡充 ②サテライト施設の検討、ICT環境の充実 (2)附属高等学校のキャンパス整備 校舎リニューアルの検討
- (3)附属柏中学校・高等学校のキャンパス整備 既存施設設備の更新、柏キャンパスの有効利用

5. 財政、人事・評価制度、組織、広報体制の在り方

- (1) 財政基盤の維持・強化 (2) 教職員人材の育成と教職協働体制の維持・強化
(3) 人事・評価制度 ①適切な人事制度と公正な評価制度 ②教職員の能力開発、研修制度の充実
(4) 意思決定の効率化・迅速化 (5) 戦略的な広報体制、広報活動の推進 (6) 積極的な外部評価の受審

2 設置学校の概要

学校法人二松学舎は、文学部・国際政治経済学部と大学院文学研究科・国際政治経済学研究科・国際日本学研究科を擁する二松学舎大学とその併設校として附属高等学校・附属柏高等学校・附属柏中学校を設置している。

二松学舎大学は2017(平成29)年4月の文学部都市文化デザイン学科の設置に続き、2018(同30)年4月に国際政治経済学部国際経営学科を設置、更に、2022(令和4)年4月、文学部歴史文化学科、大学院国際日本学研究科を開設した。

学生数は、大学学部が3,150人、大学院が104人、附属高等学校が765人、附属柏高等学校が971人、附属柏中学校が270人である。教職員数は、大学(大学院を含む)教員が76人、附属高等学校教員が38人、附属柏高等学校教員が48人、附属柏中学校教員が17人、事務職員が92人である。(2024(令和6)年5月1日現在)

3 入学者数等

(1) 入学者数 (各年度5月1日現在)

(単位:人)

区 分	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度
大学院	20	27	19
大学・学部	776	811	830
附属高等学校	232	262	288
附属柏高等学校	382	259	362
附属柏中学校	84	95	95
計	1,494	1,453	1,594

(2) 在籍者数 (各年度5月1日現在)

(単位:人)

区 分	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度	2024 (令和6)年度
大学院	67	82	104
大学・学部	3,030	3,064	3,150
附属高等学校	703	752	765
附属柏高等学校	1,072	1,037	971
附属柏中学校	252	249	270
計	5,124	5,184	5,260

(3) 通常の学生生徒1人当り納付金 (2024(令和6)年度) (単位:千円)

区 分	入学金	授業料	施設費等	計
大学院(前期・修士)	250	520	100	870
大学院(後期・博士)	250	520	70	840
大学・学部	250	796	250	1,296
附属高等学校	220	408	232	860
附属柏高等学校	150	324	330	804
附属柏中学校	200	348	330	878

4 教職員数等

人員計画<本務教職員数>(各年度5月1日現在)

(単位:人)

区 分	2023(R5)年度 (A)	2024(R6)年度 (B)	増 減 (B) - (A)
教 員	177	179	2
大学	74	76	2
附属高等学校	38	38	0
附属柏高等学校	48	48	0
附属柏中学校	17	17	0
事務職員	92	92	0
計	269	271	2

5 役員等一覧

理事 (10人)	理事長	水戸 英則
	常任理事	五十嵐 清、西畑 一哉、佐藤 晋
	理事	鵜飼 敦之、七五三 和男、江藤 茂博、小町 邦明、高柳 幸雄、武山 芳夫
監事 (2人)		根本 義尚、橋本 泰久
評議員 (23人/理事を除く)		秋葉 一之、島田 達彦、志村 孝、西園 隆士、飛田 正太郎、山口 直孝、大林 一夫、大山 由美子、古賀 三奈子、山田 浩次郎、大槻 奈那、篠辺 修、野島 透

(令和6年5月現在)

II 事業の概要

1 法人

(1) 長期ビジョン「N'2030 Plan」による改革

二松学舎創立140周年(2017(平成29)年10月)を機に策定した新長期ビジョンN'2030 Planにより、「いままでの140年、これからの140年」をテーマに、建学の精神に基づき「豊かな人間力を有し、自ら考え行動する人材、人々の長い歴史と英知を擁する古典から未来を学び、的確な国語力を備えた真の国際人の養成」を基本とし、複雑化する社会のニーズに応える教育体制を構築する。

法人部門では、ガバナンスの充実・強化、財務の安定的な管理・運用、恒常的な寄付金募集体制の強化、補助金の獲得、適切な資金運用、法人財務格付の実施などにより、本学のブランド力の向上及び各設置校の志願者・入学者の増加・安定を目標とする。

①改正私立学校法の施行に向けたガバナンス改革 ②大学学部・学科の改編に向けた検討 ③設置校の2030年に向けたカリキュラム改革 ④附属柏中学校の定員確保 ⑤KPIダッシュボードによる長期ビジョン「N'2030 Plan」の進捗管理 ⑥DXの推進による各種業務の効率化 ⑦日本私立大学協会「役員賠償責任保険」継続による危機管理

(2) キャンパス整備

- ①二松学舎大学 ・九段キャンパスの整備・拡充 ・柏キャンパスの整備・維持
- ②附属高等学校 ・九段校舎リニューアルの検討 ・柏グラウンド活用体制の確立
- ③附属柏中学校・高等学校 ・既存施設設備の整備・充実

2 大学(学部・大学院)

(1) 教育の方向性と充実策

①新学科の設置

2022(令和4)年度には文学部に新学科「歴史文化学科」を開設した。3年目を迎える本年度は、専門性の高いゼミナールを開講し、より充実した教育内容になるよう、教授会や学科会議等で他学科の事例も参考にしながら、検討、調整を進めていく。

②新カリキュラム

2022(令和4)年度入学生から導入した新カリキュラムは、学生各自が所属する学部学科の専門性を身に付けるだけでなく、異なる学科の専門科目も履修することにより、多様な学びを実現できるようになっている。また、大学生としての基本的な教養や社会人としての基礎力を身に付けることを目的として、全学部生の共通科目として、基礎ゼミナール、自校教育科目、未来ビジョン科目、総合教育科目の区分を設けている。このカリキュラムにより、デジタル社会における素養を身に付け、さらに多様な視点をもって複雑化する課題に対応できる学生を輩出する。

③IR(インスティテューショナル・リサーチ)

大学の諸活動に関する情報収集・分析を行い、大学の教育改善と教育改革につなげることを目的に、IR推進室を中心にIR活動を推進する。

また、学修成果測定プログラム(PROGテスト)の実施とポートフォリオへの掲載により、学修成果の客観的測定と可視化、自らの特性・適性を踏まえた就職活動指導などに活用する。

④学生へのアンケートの実施

大学の自己点検・評価活動の一環として学生による授業アンケートを実施し、学生の意識を調査・分析することにより、個々の授業の改善や今後の教育改革に役立てる。また、大学の諸制度に関する学生の実態・満足度調査を行い、問題意識と課題を共有し業務改善およびCS向上に繋げる。

⑤学術研究支援等の充実

- ・ 本学卒業現職教員の教育実践発表の場を提供し、研修・情報交換の場とするため「教育研究大会」を開催するなど教育支援を行う。
- ・ 東アジア学術総合研究所では、陽明学・日本漢学に関する研究や共同研究プロジェクトの推進を支援し、研究成果報告書の刊行を助成する。陽明学関係資料データベースを5ヶ年計画で構築する。
- ・ 「漱石アンドロイド」に係る大阪大学との共同研究により、大学・高等学校・中学校等での活用、講演・授業プログラムの開発ほか、シンポジウムの開催、次世代AIシステムの調査等を行う。
- ・ 研究室に設置の教員用パソコンを刷新し、オンラインやハイブリッド授業に対応できる性能のものを配置することで教育効果を高める。

(2) 施設・設備の整備

①教育研究環境の整備

新入生用ノートパソコンの配付(1人1台)、Webプリントシステムの導入によるプリンター利用環境の向上、アクティブラーニング等に対応するPC教室の改修、各教室設置の教卓PCの更新、教学システムの更新、九段1号館地下3階トイレの改修、柏1号館の内装工事、柏キャンパス構内の舗装工事などを実施する。

②大学資料展示室の充実

二松学舎関係者の軸・書簡や近現代作家の初版本・草稿類など文学界にとっても貴重な資料の収集と修復を行い、コレクションのさらなる充実を図る。収集した資料の常設展示、テーマを設けた企画展示や講演会を行う。

③図書館の充実

図書館内外から利用できる電子書籍等のさらなる充実を図る。また、電子ジャーナル契約タイトルを見直し予算を効率的に執行する。図書館利用者の要望を把握するために図書館入口に設置した目安箱を活用し、図書館サービスの更なる向上を目指す。

(3) 学生支援の強化

①教学DXの推進

新カリキュラムの導入と併せ、「学習者本位の教育」の確立、また「教育の質保証」の観点から「学習成果の可視化」を推進するため、教学システムの入替えを行う。さらに学習支援ツールとして新たな「LMS」(Learning Management System)を導入し、2025年度からの運用を目指す。本システムの導入により、今まで以上に指導教員と学生間のコミュニケーションが促進されることが期待される他、ディプロマサプリメントとの連携により、学生各自が学習成果を客観的指標と共に容易に振り返ることが出来る仕組みを構築する。

②奨学金制度

学生生徒の就学意欲の維持向上、退学者の減少や学生生徒募集のためにも奨学金制度の拡充が重要であり、「授業料減免制度」や「貸与奨学金制度」等を含めて学生を支援する。2007(平成19)年度から二松学舎教育研究振興資金の募集により、毎年度奨学基金を増額しているほか、本学100%出資の事業会社である「二松学舎サービス株式会社」からの寄付金を原資とした「二松学舎サービス株式会社奨学金」や給付型奨学金付入試などを実施している。さらに2024年度から大学院生向けの独自奨学金を設け、高度な研究に専心できる環境づくりの支援を行っている。今後も145周年事業の一環として奨学金制度充実のための見直しを図る。

③キャリア教育の充実

2030年度の社会構造や就職環境を見据え、多様な分野で活躍できるようキャリア教育を充実させる。マイクロソフトオフィススペシャリスト取得講座(MOS)、ITパスポート、サービス介助士講座、秘書検定講座など資格教育の充実、業界セミナー、大学と外部機関との連携体制の確立や企業との連携による職業適正検査などの実施、自己分析セミナーやキャリア形成支援ワークショップのほか、インターンシップによる職業体験や社会人基礎力の向上など、出口教育の充実・強化を図る。

④進路・就職支援

「キャリアデザイン」をはじめとする正課授業における各キャリア教育科目のほか、キャリアセンターにおいて、公務員試験およびSPI対策講座、就職サポートプログラムによる講座の実施、各種業界セミナーや企業説明会のほか、エントリーシート・履歴書の添削指導、面接・グループディスカッションなど実践的な対策講座の実施により就職力の強化を図る。さらにMOSやITパスポートの資格取得講座も展開し、学生のITスキル向上にも寄与する。また、企業訪問や企業開拓・就職採用情報の収集を効果的に実施している。就職情報の一元化による就職管理システムや常駐キャリアカウンセラーによる就職相談などのほか、オンラインも活用した面談や相談会の実施など学生の就職活動を支援する。

教職関連では、学習指導案の作成、模擬授業の実践、論作文添削、個人面接・集団討論などの個別指導により、実績のある国語科、書道科のみならず社会科、地理歴史科、公民科の教員養成の充実・強化を図る。各自治体教育委員会採用担当者による説明会や卒業生の現職教員と教員採用選考合格学生との懇談会、教員採用選考合格学生による下級生向けの合格報告会などを学内で開催するほか、教職のインターンシップである教職実務研修の実施、教職対策講座の開講などの各種取り組みにより、教職課程センターを中心に教員志望学生を支援する。

⑤グローバル化の推進

世界で広く活躍できる人材を育成するため、東アジアやその他地域の大学と提携し、留学生の派遣と受け入れ、相互交流のための環境整備と留学費用の助成制度の拡充、留学カウンセラーによる個別相談など留学支援体制を強化する。国際交流センターにおける外国語及び留学に係る自主的な学習機会の提供、語学検定試験費用助成、語学検定試験の単位化の積極的な運用、試験対策講座の実施などによって、外国語検定試験合格者の増強を図る。

グローバルマインドを養うため短期海外語学研修(中国、韓国、アメリカ、英国、オーストラリア、カナダなど)の実施、文学研究科におけるダブルディグリープログラムの推進、相互留学支援や本学学生の留学機会を増やすため海外協定校の拡充を図ると共に、「認定留学制度」について検討を進める。本学は「JCSOS海外留学安全対策協議会」に加盟しており、危機管理体制の万全を期す。

また、「日本語・日本学特別プログラム」として中国の協定校から留学生を受け入れるほか、大学院留学生を対象にした「国際日本学特別プログラム」を継続して実施している。

関係省庁等が提唱する「留学生の就職支援」に係るプラットフォームの構築等を進める。

⑥学生相談室による支援

専任カウンセラーと専任教員を配置し、修学と学生生活の支援、メンタルヘルスの維持・促進、人間的成長・発達を目的として、大学生活における諸問題に関するカウンセリング、フリースペース(居場所)の運営、心理教育プログラムのほか、学生相談室主催のFD・SD活動として教職員・保護者へのコンサルテーションや研修を行う。新型コロナウイルス感染拡大による社会不安がみられる中で、メンタル不調等を訴える学生に対応し、専門カウンセラーの人数を増強しており、引き続き細やかな対応を図る。

⑦学生サポートの充実

「授業内容が聞き取れない、書き取れない」「板書や配布資料が読めない」など、障がいのある学生がより良い環境で授業を受けることができるよう、授業支援機材の導入、授業を筆記するノートテイクー養成講習や障がい学生支援講演会を実施し、サポートスタッフの育成と障がい学生等多様な学生に対する修学支援の充実を図る。

学生の日頃の悩みや不安を教員と相談できるスペースを確保するほか、学外団体の協力を得て、対面での相談に抵抗のある学生へ配慮した24時間電話相談窓口やWEBで相談ができるシステムも導入し、学生生活を円滑に過ごすことができる取り組みを図る。

(4) 社会貢献

①地域と連携した教育研究事業

本学が所在する東京都千代田区や千葉県柏市との包括連携協定を締結し、その協定事業を行っている。千代田区内の6大学(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、専修大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学)と千代田区との高等教育連携強化コンソーシアムにより、ボランティア活動、共同FD・SD、千代田区をフィールドにした課題解決プログラム、公開講座、シンポジウム、地域の教育支援活動、単位互換など学生交流の活性化や地域・産業界との連携を推進する。柏市との連携においては、柏キャンパス施設の柏市民への開放、災害時に地域住民の避難場所となるなど利用方法の多様化を推進しているほか、大学図書館では特色ある本学図書館所蔵資料の公開や企画展、講演会の開催などを予定している。

②シンポジウム等の開催

2005(平成17)年度より「シンポジウム『論語』」を開催し、さまざまな角度から『論語』へのアプローチを行っている。2009(平成21)年度から参加者の対象を広げ、『論語』と古典教養の普及を目指して「『論語』の学校 - RONGO ACADEMIA -」を開催している。また、文学部、国際政治経済学部、大学院文学研究科、大学院国際日本学研究科、東アジア学術総合研究所において、シンポジウムや公開講座などを開催する予定である。

③産学連携への取り組み

民間企業との連携事業を推進し、相互の立場を尊重し対等平等の立場から、連携協定締結企業を対象とした産学連携による事業創造、人材育成、学術研究交流をはじめとする協力事業を行う。

(5) 学生募集対策

少子化が進む中で、アドミッションポリシーに基づいた選抜方法の確立、給付型奨学金付入試における入学者の追跡調査と制度の効果測定、学生募集広報戦略検討会議による募集広報の見直しと強化、学部・学科の実情に即した広報戦略の立案など、多方面から学生募集対策を行う。また早期募集活動の拡充、オープンキャンパス、模擬授業や見学会等の充実、高校教員や本学卒業生教員への積極的な情報提供、大学案内『VISION』や各種リーフレット、ホームページでの情報発信、SNSによる広報活動と併せ、特に関東地区の高校生に向けた広報展開など学生募集対策の充実を図る。2025年度入試からは、新しい高等学校学習指導要領に則った入学者選抜の適切な実現を目指す。大学院研究科では、新たに導入した本学独自奨学金制度のPRを積極的に行い、学内・学外からの進学希望の増加を目指す。

(6) 広報活動

- ① オフィシャルホームページ、中国語特設サイトの開設や受験生特設サイトを更に充実させる。学部学科ごとに専用のページを充実させ、学校紹介超短編動画を製作しWEBでの動画配信、SNSの活用などによる様々な情報の発信と学内外への掲示伝達機能を高め、対外広報の強化を図る。
- ② 本学独自のブランドイメージの確立と向上のため、「漱石アンドロイド」プロジェクトをはじめ、各種メディア対策を実施する。学生募集広報と法人広報の連携強化により、広告媒体の効果測定や見直しにより効果的・効率的な活動を行う。各種媒体を用いた直接的な広報活動のみならず、各種シンポジウムや講演会の実施など総合的な広報活動を展開させる。

(7) 卒業生情報の把握

松苓会(同窓会)と連携協力し、組織的に卒業生情報の管理を行う。正確な卒業生データベースを整備・維持することを目的とし、卒業生の登録住所宛てに調査への協力依頼を郵送、回答フォームから住所変更等を受け付けることとし、卒業生データを整備する。

3 附属高等学校

(1) 教育の方向性

「心を育て 学力を伸ばす」というコンセプトの下、人格教育と社会で十分役立てるような学力養成を目指して教育活動を行う。

- ① 建学の精神の実践を全ての教育の基礎とし、二松学舎への愛校心を育てる。
- ② 『論語』を通して、東洋固有の道徳に基づいた人格を陶冶し、豊かな人間性を備え社会に貢献できる人物を育成する。
- ③ 学力の三要素を涵養するカリキュラムの構築とアクティブラーニングを通じた教育体制の充実による学力および進学実績の向上を図る。

(2)教育の充実

アクティブラーニングや思考力、判断力および表現力の育成を意識した取組など授業内容の充実を図る。また、外部講師等による学習プログラム「放課後学習支援プログラム(仮称)」、「学舎(まなびや)」を実施し、1年生は学力の定着、2年生は2学期から大学受験を念頭に置いた学力伸長、3年生は特進・理系クラスを中心に通年で受験力の強化を図る。放課後の補習授業、夏季・冬季の長期休業中には講習会など特別講習を開講し、学力および進学実績の向上を目指す。さらに、英語力向上のため、英語4技能を測定する実力テストを1、2年生で実施する。

教育のICT化を推進し、教員及び全生徒がタブレットを活用し、授業での教育ツール、生徒や保護者とのコミュニケーションツール、成績推移やポートフォリオなどの進路相談ツールとして、さらに遠隔授業のツールとして活用の習熟度を上げていく。また、校内研究授業の実施、外部研修会への積極的参加など教員研修の充実を図る。

(3)国際化への対応

英語の授業において、ネイティブスピーカーのALTを配置し、ネイティブの英語に触れる時間を設けている。また、オーストラリア、台湾での短期ホームステイによる海外語学研修を実施する。さらに、PC教室でのオンライン英会話レッスンにより語学教育を強化しレベルアップを図る。

(4)スクールカウンセラーの配置

生徒のメンタルケアや保護者の相談に手厚く対応するため、スクールカウンセラーを校内に配置し、専門的立場から学校生活のサポートなどを教職員と連携して行う。

(5)生徒支援

生徒の入学から卒業までの様々な状況に対応できるよう父母の会や同窓会等との連携を強化する。また、日常的な面接に加え、年2回の面談週間を設定し生徒のサポートを行う。

(6)施設・設備の整備

アクティブラーニングに対応したPC教室の再構築、野球部グラウンドフェンスの改修など教育環境整備を実施する。

(7)広報・生徒募集対策

進学相談会、学校見学会、公開授業、部活動に参加する「学校体験会」などを開催し、9月より本格的な学校説明会を実施する。各取組の質量両面での拡充や、中学・塾等訪問スタッフの配置による緻密な生徒募集を行い、志願者の増加および定着化を図る。また、ホームページを充実させ、各種入試イベント情報やWEB出願システムなど入試情報を見やすくするとともに、学校や生徒の様子を毎日ブログ発信し、受験生への情報伝達を強化する。

(8)高大連携

二松学舎大学の教員による模擬授業を1、2年生の生徒全員が受講する。また、2年生の希望者が受講する「二松学舎大学『学び』のコース」(年8回の大学の各学部・学科の代表授業)を引き続き実施する。

4 附属柏中学校・高等学校

(1)教育の方向性

校訓である「仁愛・正義・誠実」と共に「自問自答」をキーワードとし、『論語』による人間形成を促し、未来を切り拓く「学力」を身に付けた人材を輩出する。

- ① 建学の精神を全ての教育の基礎として、二松学舎への愛校心を育てる。
- ② 『論語』、東洋の道徳に基づいた人格の陶冶、豊かな人間性を備え社会に貢献できる青少年の育成。
- ③ 学力の三要素を涵養するカリキュラムの構築とアクティブラーニングを通じた教育体制の充実による学力および進学実績の向上。

(2)教育の充実

柏中学校・高等学校では、ネイティブの英語授業、国語、韓国語、中国語の選択講座を設定し、さらに内外の多様な語学研修への参加機会を提供する。

高校では、進学コースと特進コースに加えて、スーパー特進コースとして難関大学を目指すクラスを設置するなど目標・意欲の高い生徒を入学させ、生徒の学習に向かう態度と自己統率力の育成を行うなど、それぞれ特色ある教育の実践を図っている。中学校では、2022年度より「グローバル探究コース」、「総合探究コース」として、探究学習に重点を置くコース編成に変更し、充実を図っている。

体験学習としては、中学校では、「沼の教室」、「都市の教室」、「古都の教室」、「雪の教室」、「世界の教室」等、様々な行事による実体験を通じた教育を引き続き行うほか、生徒が企業にインターンとして参加し共同の課題に取り組むといった、より実践的な活動も進めていく。高校においては、芸術鑑賞会、2年次の海外研修体験を引き続き行っていく。座学では『論語』教育の実施を中心に、これからの時代に貢献できる十分な「思考力」、「判断力」、「表現力」、「コミュニケーション力」を養成し、建学の理念の実現を目指す。また、中高ともにSDGsを軸とした「社会解決型PBL」、「SDGsコラボレーションプログラム」を通じて、具体的な社会貢献についての体験型学習を実施する。この他、オンライン授業等、通信環境の教育への活用についても積極的に推進していく。

(3) 国際化への対応

台湾の桃園市私立新興高級中学(高校)やオーストラリアのクリーブランドハイスクールと相互交流をより深めるため交流協定を締結しており、相互の短期留学やホームステイを計画している。さらにカナダ、フィリピン、イギリスなどでの語学研修を中・高の学年やコースまたは希望者を対象に実施していく。

(4) スクールカウンセラーの配置

生徒のメンタルケアや保護者の教育相談に手厚く対応するため、スクールカウンセラーを校内に配置し、専門的立場から学園生活のサポートなどを教職員と連携して行う。

(5) キャリアプログラムの実施

中学生、高校生に対し、社会における職業的・社会的自立をするための考え方や能力開発教育を実施し、早い段階からの自己理解、社会人とのディスカッションなどを通して、将来の職業観を育成する。高校2年次においては、自己が社会貢献できる進路実現のための計画書である「第一志望宣言書」を生徒に作成させ、学校全体で生徒のキャリアをバックアップする体制を取っていく。また、「二松柏キャリアデザインプログラム」に基づき、新しい進路指導の流れを明確化して指導に当たっているほか、「Google Classroom」・「スタディプラス」等を使った学習のPDCAサイクル確立の指導も行っていく。

(6) 施設・設備の整備

当年度は、南校舎空調設備交換工事、北校舎屋上等防水工事、北・南校舎トイレ改修工事、LL教室改修工事等、既存校舎の改修を順次実施し、教育環境の向上を図る。また、二松学舎サービス株式会社と連携して「地産地消型再エネ・蓄エネ設備導入促進事業(都外設置)」の助成金獲得により、太陽光発電・蓄電設備を導入することによって、SDGsに寄与する。

(7) 広報・生徒募集対策

近隣の小・中学校や塾との関係強化、訪問スタッフの配置(業務委託を含む)、情報交換会など、情報収集と各種メディアを使用した広報活動を行うほか、例年行っているネイティブスピーカーによる小学生対象の英語教室や、地域の小学校高学年を対象とした勉強会など、積極的に地域活動により知名度の向上を図り、附属柏中学校の入学者獲得について法人全体で取り組む。また、創立145年記念事業として、2022年度にラッピングをリニューアルしたスクールバスを運行し、地域にアピールしている。バスのルートについては、柏駅・我孫子駅の他に新鎌ヶ谷方面に便を拡充しており、これまで通学が不便であった地域の受験者層開拓を進めている。

(8) 生徒支援

生徒による授業アンケート、卒業生と保護者の満足度調査、教員による学校評価(自己評価)を実施し、それに基づく教育の改善を図る。また、「主体的・対話的で深い学び」を目的とした「アクティブラーニング」による各教科における授業実践の継続実施を行う。ベネッセが提供する生徒の学力と学習習慣をチェックする「スタディーサポート」や模試のデータなどを活用して学習指導や進路指導を行うプログラムである「ファインシステム」を使った担任の面談を増やし、タブレットで情報を共有するなど、学力不振者への補習、不適応者へのカウンセリングなどきめ細かな対応を行う。この他、外部講師や卒業生チューターを活用しながら「放課後学習センター」を継続実施し、生徒一人一人の放課後における学習サポートを更に強化する。

(9) 高大連携

高大接続改革への対応として、大学教員による高大一貫教育を高3選択授業(金5・6限)で実施している。二松学舎大学を第一志望とする生徒の受講指導を行う。

Ⅲ 財務の概要

少子化をはじめ私学を取り巻く環境や社会経済状況の大きな変化の中で、本学が名実ともに発展していくためには、健全な財政運営に留意し、内部留保の蓄積など堅固な財務基盤を維持する必要があり、以下の骨子を内容とする抜本的な財務改革を実行し効率的な財政運営を図る。

(1) 本源的収入は学納金、補助金が主体

学生生徒等納付金、各種補助金を本源的収入とし、寄付金、資金運用、施設貸出その他事業収入は補助的収入として、それぞれの増収を図る。

(2) 学納金収入の安定的確保

本学卒業教員ネットワークの更なる充実、教職課程の改革による教員採用実績の引き上げ、公務員や著名企業への就職率の向上など、学生募集力の強化を図る施策に加え、中途退学者の減少策、両附属高等学校から大学への内部進学者数の安定的確保により、長期的かつ安定的な学納金収入の確保を図る。

(3) 補助金の獲得

補助金制度について、学内外の研修を通じ制度の理解と事業展開を促し更なる補助金の獲得を図る。科学研究費補助金のほか、産・学・官連携を推進し「私立大学等改革総合支援事業」等の競争的補助金や私立大学等経常費補

助金(特別補助)の獲得を積極的に行う。

(4) 寄付金募集

「二松学舎教育研究振興資金」制度による寄付金募集を実施し、恒常的な寄付金収入の定着を図る。なお、2023年度に故奥村睦子氏から故水木かおる氏(本名:奥村聖二氏)の「著作権」について多額な寄付があり、第3号基本金に組み入れた。今後、当該寄付の果実部分に係る活用方法を検討して行く。

(5) 資金運用関係

中長期的な財政基盤の強化を図るとともに将来の教育研究の発展に資するため、資金運用リスク管理体制に基づき安全かつ慎重な運用を基本とし、効率的な資金運用により収入増を図る。

(6) 経費の削減

部署別予算管理の推進により、事務の効率化と既存事業の見直しを行い、経常的経費の削減を実施する。スクラップ・アンド・ビルドによる事業の推進、業務のDX化推進等によりコスト削減を図る。

(7) 事業会社の活用

本学出資の事業会社「二松学舎サービス株式会社」は設立18年を迎えた。事業会社の業務内容の拡充により収益の拡大を図るとともに、学生サービスの向上、事務処理の効率化、グループ全体の経費節減を目指す。

(8) 外部評価の受審

第三者機関による評価として、大学基準協会による大学の認証評価および格付機関(株式会社格付投資情報センター)による法人の財務格付評価を受けており、評価の維持向上に努めるとともに、必要に応じて外部コンサルタントの意見を受け入れるなど、運営の透明性と公平性に留意した法人運営を行う。

事業活動収支予算書

(単位:百万円)

		2024 (令和6) 年度予算額	2023 (令和5) 年度決算額
教育活動収支	科 目	金 額	金 額
	学生生徒等納付金	4,826	4,652
	手数料	127	130
	寄付金	48	49
	経常費等補助金	1,123	1,157
	付随事業収入	8	8
	雑収入	75	202
	教育活動収入計	6,206	6,198
	科 目	金 額	金 額
	人件費	3,187	3,191
教育活動支出	教育研究経費	2,350	2,215
	管理経費	526	514
	徴収不能額等	5	3
	教育活動支出計	6,067	5,923
	教育活動収支差額	139	274
教育活動外収支	科 目	金 額	金 額
	受取利息・配当金	250	280
	その他の教育活動外収入	2	49
	教育活動外収入計	252	330
	科 目	金 額	金 額
	借入金等利息	1	3
	その他の教育活動外支出	-	-
	教育活動外支出計	1	3
	教育活動外収支差額	251	327
	経常収支差額	390	601
特別収支	科 目	金 額	金 額
	資産売却差額	-	23
	その他の特別収入	49	302
	特別収入計	49	325
	科 目	金 額	金 額
	資産処分差額	12	23
	その他の特別支出	-	-
	特別支出計	12	23
	特別収支差額	37	302
	基本金組入前当年度収支差額	427	904
基本金組入額合計		△ 597	△ 765
当年度収支差額		△ 170	139
前年度繰越収支差額		△ 2,575	△ 2,713
翌年度繰越収支差額		△ 2,745	△ 2,575
(参考)			
事業活動収入計		6,507	6,853
事業活動支出計		6,080	5,949

資金収支予算書

(単位:百万円)

科 目	2024 (令和6) 年度予算額	2023 (令和5) 年度決算額
収入の部		
学生生徒等納付金収入	4,826	4,652
手数料収入	127	130
寄付金収入	48	49
補助金収入	1,169	1,174
資産売却収入	1,300	1,016
付随事業収入	10	10
受取利息・配当金収入	250	280
雑収入	75	249
借入金等収入	1	1
前受金収入	728	797
その他の収入	249	408
資金収入調整勘定	△ 828	△ 931
当年度資金収入合計	7,954	7,835
前年度繰越支払資金	5,074	4,917
収入の部合計	13,028	12,752
支出の部		
人件費支出	3,119	3,146
教育研究経費支出	1,729	1,637
管理経費支出	506	492
借入金等利息支出	1	3
借入金等返済支出	111	299
施設関係支出	499	135
設備関係支出	370	261
資産運用支出	1,633	1,711
その他の支出	390	465
資金支出調整勘定	△ 346	△ 470
当年度資金支出合計	8,013	7,678
翌年度繰越支払資金	5,015	5,074
支出の部合計	13,028	12,752

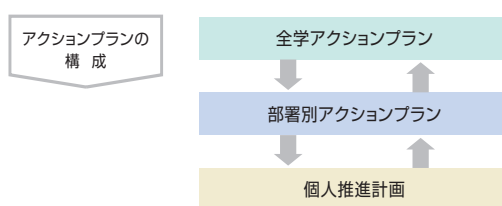
注) 金額は百万円未満を四捨五入しているため、
合計額等が一致しない場合がある。

B 2023(令和5)年度アクションプラン年次報告書

1 アクションプランの構成と2023(令和5)年度版策定までのフロー

本学のアクションプランは、長期ビジョン「N'2030 Plan」の具現化のための行動計画であるが、向こう5年間の全学的課題を一覧化した「全学アクションプラン」と、「全学アクションプラン」推進のための各事務担当部署の諸課題をまとめた「部署別アクションプラン」の2層構造となっている。

また、「部署別アクションプラン」の課題を、個人が担当する業務にまでブレイクダウンさせ、個人毎の推進計画として設定している。



2 アクションプランの進捗管理

アクションプランの進捗管理は、次のような体制で行っている。

(1) 管理体制

アクションプラン全般については、「アクションプラン推進管理委員会」においてその進捗を管理している。原則月1回開催して進捗状況の報告・確認を行い、各委員から示された意見の内、計画に反映すべきものは年次更新の際に適宜「全学アクションプラン」に織り込み、修正を行っている。

また、前年度に進捗が見られなかった課題の中から複数の「重点課題」を選定し、当年度も継続してその進捗をモニタリングしている。

(2) 経営層と部課長とのミーティング

各年度初めには常任理事・事務局長等の経営層と事務組織の部課長とのミーティングを実施している。各部署の「部署別アクションプラン」進捗状況、今後に向けた取り組み方針等について意見交換を行い、各部署が直面している重要な課題について、経営層と担当部署との情報の共有化を図っている。

(3) 二松学舎KPIダッシュボードによる進捗の可視化

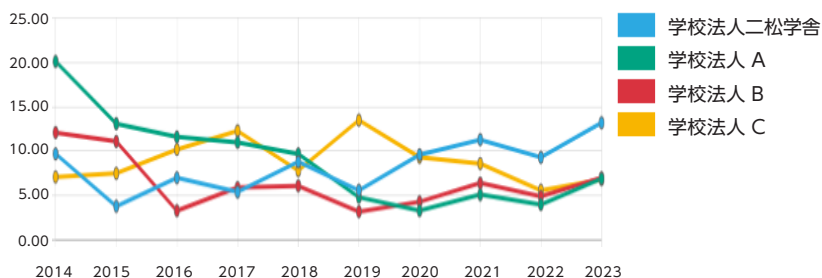
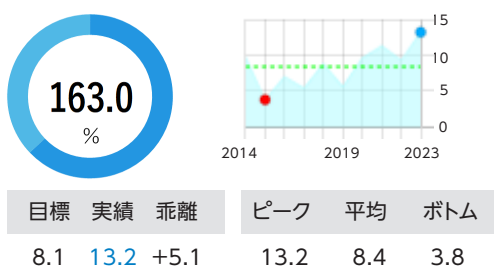
アクションプランの進捗を可視化するため、2018(平成30)年度から二松学舎KPIダッシュボードシステムを導入した。「①経営基盤」、「②入学(入口)」、「③教育(在学中)」、「④就職(出口)」、「⑤卒業後」の5つの局面について、関係指標を「コア指標」と「レファレンス指標」とに分類し、約30項目程度を一覧化し、管理している。設置校ごとに競合する他大学等をベンチマーク校として4～5校設定しており、各種数値の比較・差異の要因分析を実施している。

N'2030 PLAN KPI DASHBOARD

	経営基盤	入学(入口)	教育	就職(出口)	卒業後
コア指標	積立率	志願者倍率等	学生満足度	就職率	現住所把握率
	事業活動収支差額比率	入試難易度(偏差値)	授業評価	大企業就職者数(従業員3千人以上)	
	経常収支差額比率		授業外学習時間		
	教育活動収支差額比率		DP達成度(PROG)		
			DP達成度(実態・満足度)		
レファレンス指標	戦略指標	HPアクセス数	受入・派遣留学生数	金融業就職者率	寄付金額
	入学定員充足率	給付奨学金額	海外交換留学協定校数	公務員試験合格者率	寄付金件数
	志願度・人気度		ラーニング・コモンズ活用度	教職採用者数	
	運用資産余裕比率	入学選抜方式別追跡調査結果		本学出身者が代表を務める組織数	ホームカミング参加率
		偏差値別出身校		上場企業内定者数	

【KPIダッシュボードシステム画面】

事業活動収支差額比率(%)



前ページ下段の図は本学のKPIダッシュボードシステムの画面の一部である。左の図の「目標」欄には本学のアクションプランで定めた最終目標値又はベンチマーク校の過去10年間の平均値を示す数値を、「実績」欄には本学の当該年度の実績値を表示して、目標達成までの数値を「乖離」欄に示すことで、進捗状況を可視化している。円グラフは、目標に対する進捗度を示し、その隣折れ線のグラフは本学の当該数値のピーク値とボトム値がわかるように経年変化を示している。

右の図は、ベンチマーク校と本学の経年変化を同時に示すことで、本学の立ち位置も可視化している。ベンチマーク校を設定しない本学独自のKPI項目もある。

(4) アクションプランの年次更新について

本学の長期ビジョン「N'2030 Plan」を具現化するための行動計画である「アクションプラン」は、1年経過毎に微修正を加える「ローリングプラン」となっているが、その更新作業は次の通り行っている。

まず「部署別アクションプラン」に各部署が掲げた具体的課題について、学内のグループウェア上で各課長が年度終了時に進捗状況を入力する。次に、課題毎に定めた「担当理事」が各課題の進捗状況についてコメントを付し、評価を行う。

その結果を基に、各部署は次年度の「部署別アクションプラン(原案)」を策定し、常任理事・事務局長・学務局長とのミーティングを経て、当該年度の「部署別アクションプラン」を確定させる。

確定した各部署の「部署別アクションプラン」を企画・財務課が取り纏め、「全学アクションプラン」への修正が必要な点を反映させ、「アクションプラン推進管理委員会」で当年度の「全学アクションプラン」(原案)の検討を行う。続いて、理事会へ「全学アクションプラン」(案)を付議し、審議を経て、当年度の「全学アクションプラン」を確定、ホームページ等を通じて学内外に公表している。

このように「部署別アクションプラン」、「全学アクションプラン」それぞれにPDCAサイクルを機能させることによって、時代の要請や環境の変化を速やかに取り込むことが可能となっている。

3 2023(令和5)年度アクションプランの概要

(1) 全学アクションプラン

「全学アクションプラン」には、本学の様々な課題を網羅的に掲載している。課題は、大きく「建学の精神と二松学舎憲章」、「二松学舎大学・大学院の教育改革」、「附属高等学校の教育改革」、「附属柏中学校・高等学校の教育改革」、「財務、人材育成、評価、組織、広報、その他」の5つに分け、課題の内容毎に分類している。

全学アクションプランに掲げた主な課題は次のとおりである。

I 建学の精神と二松学舎憲章	
内 容	①建学の精神の学内外への浸透、②二松学舎憲章の普及、③創立 150 周年に向けた 150 年史の編纂、④創立 150 周年記念式典の実施
II 二松学舎大学・大学院の教育改革	
内 容	① 21 世紀型教育体制の構築、②学部再編等による特定成長分野への転換支援に係る検討、③次世代型新カリキュラムの編成、④開講科目数の適正化、⑤教育・研究環境整備、⑥教学ガバナンスの確立、⑦FD 活動の見直し・体系化、⑧第 3 期認証評価結果への対応、⑨私立大学等改革総合支援事業への対応、⑩教学 DX の推進、⑪自校教育の導入・充実、⑫アセスメントポリシーの策定と成績評価制度の見直し、⑬学生満足度の向上、⑭グローバル化の推進、⑮体系的キャリア教育の導入・実施、⑯教職採用者数の維持、⑰産学連携の推進、⑱地域社会との連携強化、⑲研究内容のレベル維持、⑳研究科組織の見直し、改編、㉑科研費採択件数の向上、㉒漱石アンドロイド学術研究の推進、㉓奨学金制度の見直し、㉔課外活動充実策の抜本的見直し、㉕就職率の向上、維持、㉖学生情報（教育成果）の管理、活用推進、㉗外国人留学生在籍者数の安定的確保、増員、㉘新入試制度への対応、㉙退学率の低減、㉚九段キャンパスの整備・拡充、㉛柏キャンパスの整備・維持、㉜附属図書館（九段・柏）の蔵書精査
III 附属高等学校の教育改革	
内 容	①自校教育の推進、②新大学入試制度への対応、③難関大学への進学実績向上、④生徒平均学力の向上、⑤二松学舎大学への安定的進学者数の維持、⑥生徒募集力の強化、⑦生徒・保護者満足度の向上、⑧教育環境の整備・充実
IV 附属柏中学校・高等学校の教育改革	
内 容	①自校教育の推進、②新大学入試制度への対応、③難関大学への進学実績向上、④生徒平均学力の向上、⑤二松学舎大学への安定的進学者数の維持、⑥生徒募集力の強化、⑦生徒・保護者満足度の向上、⑧教育環境の整備・充実、⑨二松学舎教育振興資金の計画的獲得
V 財務、人材育成、評価、組織、広報、その他	
内 容	① KPI 目標数値の達成、②強固な財務基盤の維持、向上、③奨学金制度の整理・体系化、④収入源の多様化と安定的収入の確保、⑤寄付金収入の安定的確保、⑥財政基盤の維持、⑦二松学舎 SD 計画の推進、⑧人事計画の見直し、⑨人事評価制度の改善、⑩働き方改革、⑪法人ガバナンスの検証、改善、⑫知名度の向上、⑬業務の効率化、⑭既存施設の維持、改善、⑮ BCP（事業継続計画）プランの策定

(2) 部署別アクションプラン

各事務担当部署では、「全学アクションプラン」の課題のうち、所掌する具体的な課題について「部署別アクションプラン」を毎年度作成し、計画を管理、推進している。

2023(令和5)年度は、各部課長が前年度の「部署別アクションプラン」の達成度合いを報告後、各部課長と経営層とのミーティングを実施し、前年度の「部署別アクションプラン」の進捗状況や、実行にあたっての問題点について意見交換を行った。その結果明らかになった問題点や社会情勢の変化を踏まえ、各部署で前年度の「部署別アクションプラン」を見直し、2027(令和9)年度までを期間とした「2023(令和5)年度部署別アクションプラン」を作成して推進した。各事務担当部署が掲げた課題の概要は次のとおりである。

部署名	主な課題
総務・人事課	創立150年史編纂業務担当者の選任／SD計画の体系整備及び実施検証／ガバナンスコードの検証／業務効率化に向けた各種取り組みの実施／働き方改革への対応指針の検討／危機管理マニュアルの作成／九段キャンパスの長期修繕計画実施
広報課	広報活動の改善／創立150年史編纂事業への取り組み／地域連携に係る広報展開
情報システム管理室	学内ネットワークのさらなる増強／次期教学システム導入準備、システム支援
企画・財務課	KPIダッシュボードシステムの運用・見直し／ベンチマーク校とのKPI差異要因の分析／九段5号館の整備／附属高校の施設拡充策の検討／教育研究活動等への褒賞・奨励・助成制度の検討
経理課	各種財務指標改善計画の検証・見直し／法令改正に伴う対応準備
教学 DX 推進室	次期基盤システムの検討・選定／LMSの導入準備
柏事務課	柏キャンパスの危機管理対応マニュアル作成及び柏市との防災対策の見直し／柏校舎への太陽光発電装置設置計画策定／柏キャンパス長期修繕計画の段階的实施／柏地域の地域連携活動支援／柏地域の産学連携活動の業務支援／太陽光発電・蓄電システムの導入
地域連携室 産学連携室	千代田区地域の連携強化のための事業検討／産学連携の推進
大学改革推進課	21世紀型教育体制の構築／千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムへの参加・連携／科研費採択件数の向上／私立大学等改革総合支援事業の採択／教学ガバナンスの確立／第三期認証評価結果への対応／授業アンケート分析結果等を活用したFDの実施／アセスメントポリシーの策定
IR 推進室	IR活動の活性化／認証評価結果を踏まえたPDCAサイクルの改善
入試課	新学習指導要領に対応した入試制度の検討／知名度の向上／外国人留学生の受け入れ
教務課	21世紀型教育体制の構築／次世代型新カリキュラムの運用／学生貸与PC活用方策の検討／アセスメントポリシーの運用／新ディプロマポリシーの運用／学生ポートフォリオシステムの運用／新LMSの導入
学生支援課	学生満足度のさらなる向上／高等教育無償化への対応／課外活動支援／バランスを考慮した奨学金制度の見直し／退学者の要因分析と対策検討
国際交流センター事務室	留学支援制度の充実／海外協定校増加に向けた取り組み／語学センター機能の改善策の検証／外国人留学生受入増員策の検討／留学生の就職支援策の検討
図書課	創立150年史編纂事業への取り組み／千代田区・柏市との連携強化／図書館の設備検討／電子書籍の充実／ラーニング・コモンズ設備の検討・課題の把握
教職課程センター事務室	教員採用試験合格対策の実施／採用選考対策の実施／学生ポートフォリオの活用促進と検証
キャリアセンター事務課	体系的キャリア教育の導入・実施／学生情報(教育成果)の管理、活用促進／公務員採用試験合格者の増加対策／実業界OB・OGネットワークの検証と見直し
附属高等学校事務室	難関大学への進学実績向上／生徒募集力の強化／新大学入試制度への対応／生徒・保護者満足度の向上
附属柏中高事務室	難関大学への進学実績向上／生徒募集力の強化／新大学入試制度への対応／生徒・保護者満足度の向上

4 2023(令和5)年度アクションプランの進捗とその成果

2023(令和5)年度における主要課題の進捗・成果は次のとおりである。

(1) 二松学舎大学・大学院の教育改革

① 二松学舎大学独自奨学金制度の見直し

高等教育の修学支援新制度が拡充されたことに伴い、インセンティブ型奨学金の支給を拡充した。優等賞(中洲賞に次ぐ優秀なものに与える褒賞)について新たに当該年度の授業料の半額相当額を支給することとした。また、二松学舎サービス株式会社奨学金(NSC奨学金)についても受給者数を拡大させた。

② 教育研究活動等への褒賞・奨励・助成制度の検討

本学の知名度向上等につながる活動を活発化させる目的で、本学のブランドイメージの向上に貢献が認められる活動に対する表彰制度を明文化した。

③ 大学志願者数について

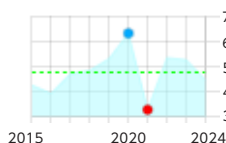
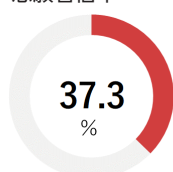
大学における2024(令和6)年度入試では、両学部ともに志願者が減少した。KPIにおける志願者倍率は総志願者数を入学定員で除して算出している。当KPIの現状は次ページのとおりである。

なお、入学辞退者の多い大学入学共通テストを利用した方式が定員に占める割合の高い大学では志願者倍率

が高く計算される問題や、一度の受験で複数学部を併願できる制度のある大学では、当該試験制度の入試区分において募集定員の100倍を超える受験者がいる計算になっている大学がある問題等があり、適切な目標値の設定については、今後の課題である。

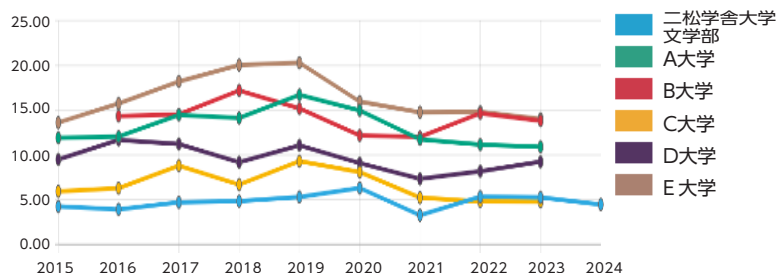
〔二松学舎大学文学部の志願者倍率〕

志願者倍率



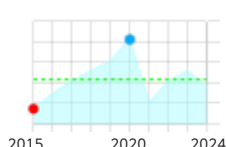
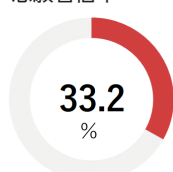
目標	実績	乖離
11.93	4.45	-7.48

ピーク	平均	ボトム
6.30	4.75	3.26



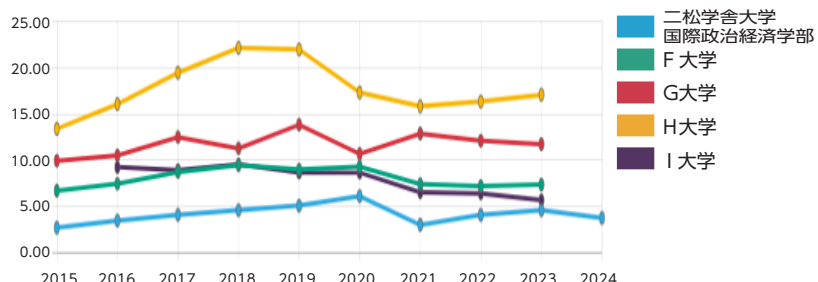
〔二松学舎大学国際政治経済学部の志願者倍率〕

志願者倍率



目標	実績	乖離
11.40	3.78	-7.62

ピーク	平均	ボトム
6.13	4.17	2.73

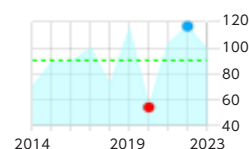
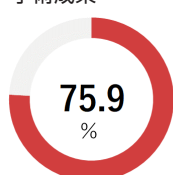


④学術成果

文部科学省の補助金制度である2023(令和5)年度私立大学等改革総合支援事業では、「タイプ3 地域社会への貢献(プラットフォーム型)」を申請、採択された。上記の他、戦略的研究基盤形成支援・COEなどの採択型補助等の採択件数及び教員1人あたりの科研費採択件数を合成指標にして、学部ごとにKPI項目「学術成果」を定めている。当KPIの現状は以下のとおりである。

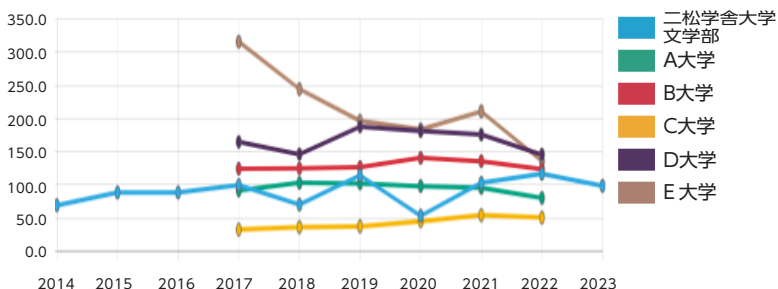
〔二松学舎大学文学部の学術成果〕

学術成果



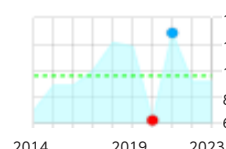
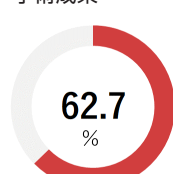
目標	実績	乖離
129.9	98.6	-31.3

ピーク	平均	ボトム
116.8	90.4	53.7



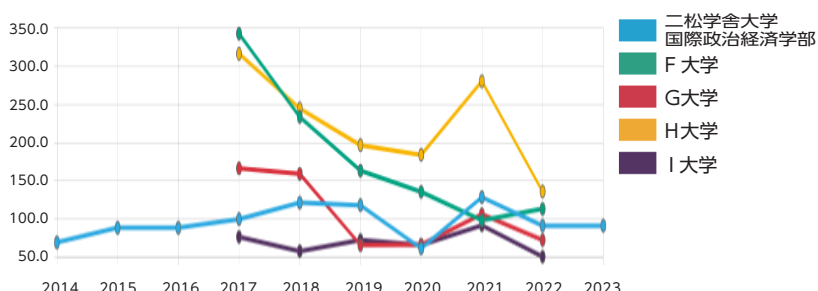
〔二松学舎大学国際政治経済学部の学術成果〕

学術成果



目標	実績	乖離
145.7	91.4	-54.3

ピーク	平均	ボトム
128.6	95.9	61.9

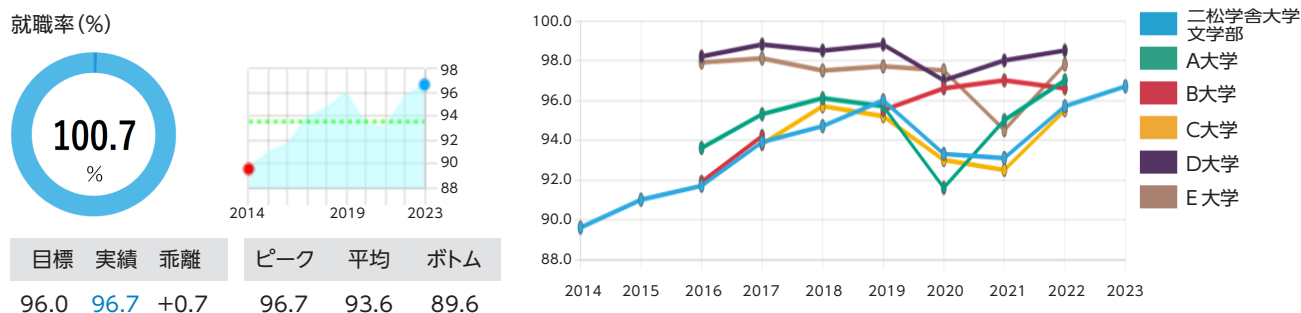


⑤就職状況

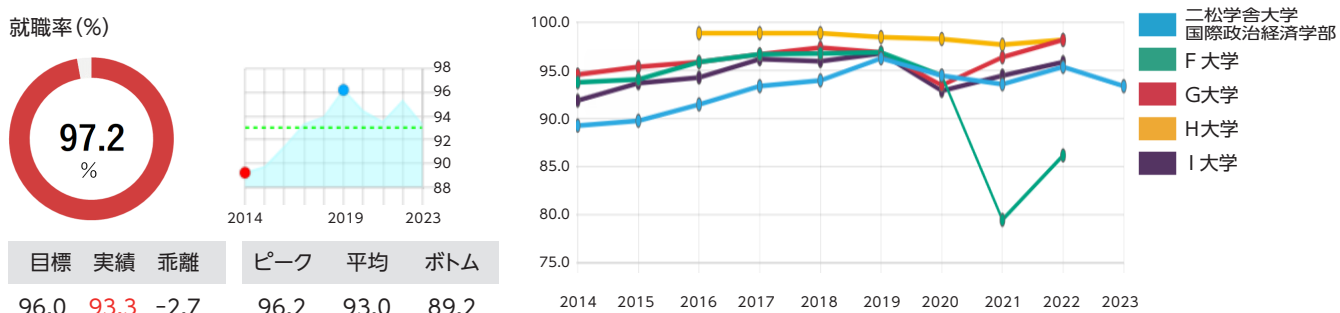
2023(令和5)年度の文学部の就職率は、目標を超える結果となった。国際政治経済学部は、若干の減少となった。減少の要因は、2023年度就職率は本学キャリアセンターの調査への未回答者が7名に増えたことが影響していると分析している。(2022年度未回答者は3名)

なお、就職者数を就職希望学生数で除した数値を就職率として学部ごとにKPIを定めている。KPIの現状は以下のとおりである。

〔二松学舎大学文学部の就職率〕



〔二松学舎大学国際政治経済学部の就職率〕



(2) 附属高等学校の教育改革

①生徒の学力向上と高大連携教育

2020(令和2)年度からスタートした二松学舎大学との連携教育プログラム「二松学舎学びのコース」(高大連携)が4年目を迎え、34名(昨年度38名)の生徒が受講した。「二松学舎学びのコース」とは二松学舎大学の専門分野において高い能力と強い意欲を持ち、大学レベルの教育研究に触れる機会を希望する附属高等学校の生徒に対し大学の教員が講義を担当する。生徒のキャリア形成につなげることを目的としている。2024年度の二松学舎大学への入学者は47名となった。

②一般受験者向け出願検討会の実施

2023年度から新たに一般受験者向け出願検討会を開始した。本出願検討会では、模擬試験結果を分析して進路指導部と各学年担当の教員で共有し、各生徒の志望校の選定や、生徒個々の課題に対する指導を行っている。模擬試験結果の分析では、AI技術を用いた革新的な取り組みを行っている。

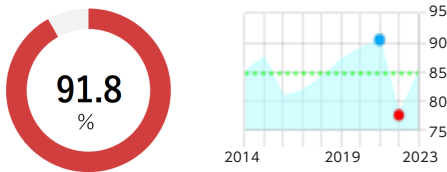
③生徒及び保護者の満足度調査の実施

高校3年生及びその保護者を対象に満足度調査を実施した。同調査の設問中、学校生活全般に関する質問に対して「満足」「やや満足」と回答した生徒数の割合を数値化してKPIに定めている。

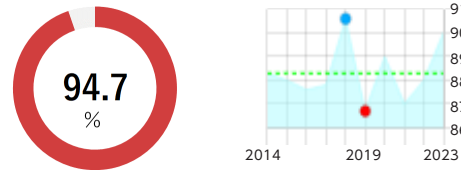
2023(令和5)年度は、5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更され、全面的に授業等を再開した。

〔二松学舎大学附属高等学校の生徒・保護者満足度〕

生徒満足度 (%)



保護者満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
92.0	91.8	-0.2	90.5	84.7	77.5

目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	94.7	-0.3	90.6	88.3	86.7

(3) 附属柏中学校・高等学校の教育改革

① 学力向上・生徒支援への取り組みと附属柏高等学校の難関大学進学実績の向上

附属柏高等学校では、スタディサプリを新たに導入、ラーニングコモンズを含む充実した自習スペースを提供するほか、本校教員による7限補習授業や外部講師による放課後講座を実施し、生徒一人一人の放課後における学習サポートを強化した。また、授業では「主体的・対話的で深い学び」を目的としたアクティブラーニングを実施、担当教員の外部・内部研修に取り組み、教育の質の向上を図った。進路対策についても強化を図り、大学進学実績は確実に伸びている。

② 生徒募集力の強化

2023(令和5)年度は、コロナ禍での入試広報活動であったが、附属柏中学校・高等学校の入学者数は、中学校95名、高等学校259名であった。2024(令和6)年度は、中学校95名、高等学校362名の入学者を数え、引き続き好調な学生募集状況を維持している。

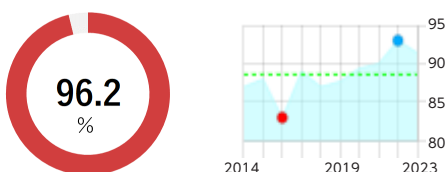
進学実績の向上が生徒募集力の強化に確実に繋がっているといえる。

③ 生徒及び保護者の満足度調査の実施

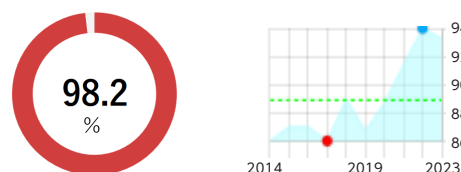
中学校3年生、高校3年生及びその保護者を対象に満足度調査を実施した。同調査の設問中、学校生活全般に関する質問に対して「満足」「やや満足」と回答した生徒数の割合を数値化してKPIに定めている。当KPIの現状は以下のとおりである。上記調査の結果をうけて、今後さらなる改善につなげたい。

〔二松学舎大学附属柏高等学校の生徒・保護者満足度〕

生徒満足度 (%)



保護者満足度 (%)

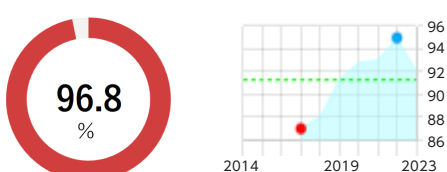


目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	96.2	+1.2	93.0	88.6	83.0

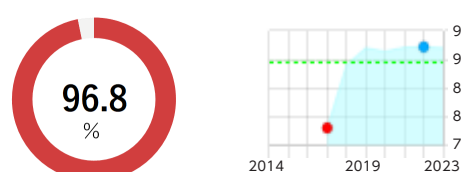
目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	98.2	+3.2	94.0	88.9	86.0

〔二松学舎大学附属柏中学校の生徒・保護者満足度〕

生徒満足度 (%)



保護者満足度 (%)



目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	96.8	+1.8	95.0	91.3	87.0

目標	実績	乖離	ピーク	平均	ボトム
95.0	96.8	+1.8	92.2	89.5	78.0

(4)財務、人材育成、評価、組織、広報、その他

①21世紀型教育体制を実現する新カリキュラム運用開始

二松学舎大学は2022(令和4)年度入学生から新カリキュラムを導入した。新しいキャリアデザイン・数理データサイエンス・AI関連科目などの予測困難な時代に対応した21世紀型教育の実現を図った。2023(令和5)年度は数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)の申請準備を行った。

②アセスメントプラン^{*}の運用開始

二松学舎大学は、学生の入学時、在学中、卒業時の段階において、それぞれ客観的な指標に基づき学修成果の評価・測定を実施し、それを踏まえて3つのポリシー(学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学受入れの方針)に基づく教育課程が有効に機能し、教育上の目標が達成されているか検証を行う体制を整えている。2023年度はアセスメントプランに基づく学修成果の検証を行った。

本アセスメントプランの概要は二松学舎大学HP上で公開している。

^{*}アセスメントプランとは…学生の学修成果の評価(アセスメント)について、その目的、学位プログラム共通の考え方や尺度、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針。

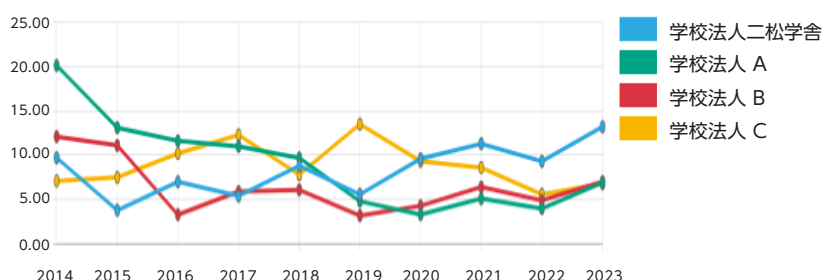
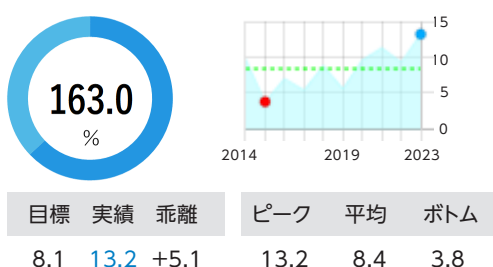
③財務について

事業活動収支計算書をもとに、基本金組入前当年度収支差額を事業活動収入で除した数値を事業活動収支差額比率という。この財務比率の数値がプラスで高ければ高いほど、自己資本比率が高く経営に余裕があることを示す。この目標値及び実績値の経年変化をKPIに定めている。当KPIの状況は下表のとおりである。

また、事業活動収支計算書をもとに、経常収支差額を経常収入で除した数値を経常収支差額比率という。この財務比率がプラスで高ければ高いほど、経常的な事業活動が安定していることを示す。この目標値及び実績値の経年変化をKPIに定めている。当KPIの状況は下表のとおりである。

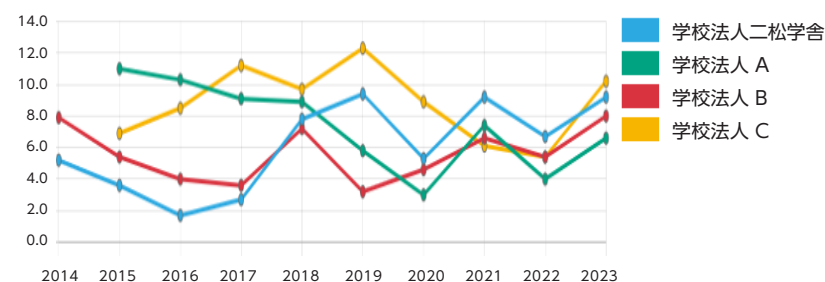
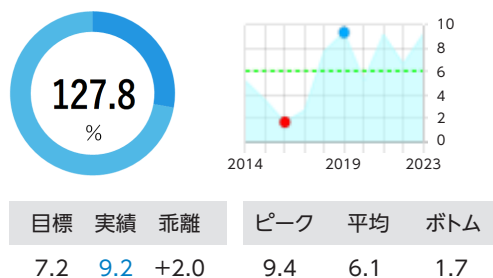
[事業活動収支差額比率]

事業活動収支差額比率(%)



[経常収支差額比率]

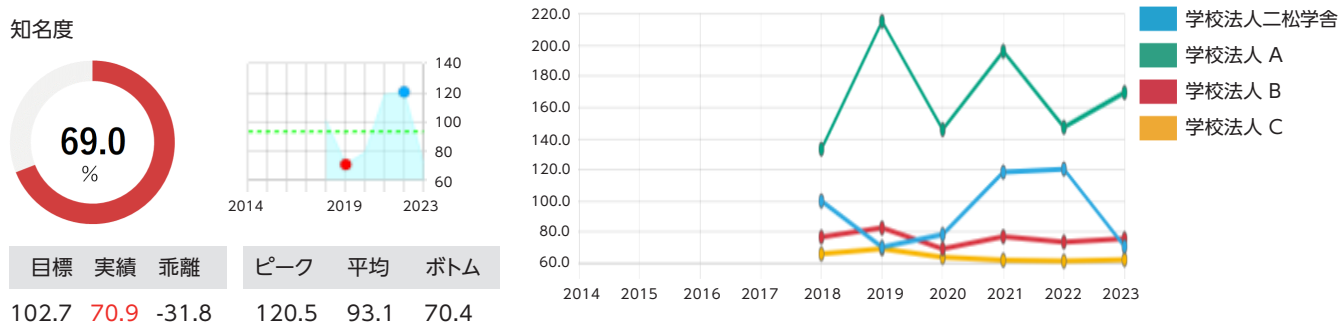
経常収支差額比率(%)



④広報について

読売新聞、朝日新聞、毎日新聞及び日本経済新聞に本学関連記事が掲載された件数及び日経BPコンサルティング「大学ブランドイメージ調査」における結果を合わせて指標化したものを知名度としてKPIに定めている。当KPIの状況は次のとおりである。

【知名度】



5 2023(令和5)年度アクションプランのフォロー課題について

2023(令和5)年度アクションプランに掲げている課題のうち、次の課題については重要度を考慮し、2024(令和6)年度も引き続き進捗のフォローアップを行う。

(1) (学校法人)財政基盤の維持

良好な収支バランスの維持、向上に向けた学費改定の検討を行う。

(2) (大学)研究活動の推進

教員の学術研究活動の発展に向けた施策の検討を行う。(科研費獲得を含む)

(3) (大学)成長分野をけん引する大学・高専機能強化支援事業

国の成長分野人材育成促進策に対応した改革を検討する。

(4) (附属高等学校)難関大学への進学実績の向上

生徒平均学力を向上させ、難関大学への進学実績の向上策を検討し、そのための取り組み等についても、法人全体で情報を共有する。

(5) (附属柏中学校・高等学校)入学定員管理と平均学力の向上

入学定員管理施策の検討状況及び生徒の平均学力向上策の検討状況について、法人全体で情報を共有する。

以上



学校法人二松学舎

学校法人二松学舎

〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL.03-3261-7407

二松学舎大学

九段キャンパス：〒102-8336 東京都千代田区三番町6番地16 TEL.03-3261-7406

柏キャンパス：〒277-8585 千葉県柏市大井2590番地 TEL.04-7191-8751

二松学舎大学附属高等学校

〒102-0074 東京都千代田区九段南2丁目1番32号 TEL.03-3263-5014

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校

〒277-0902 千葉県柏市大井2590番地 TEL.04-7191-3179